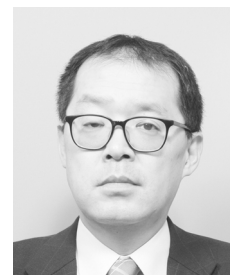


☆巻頭言☆

学会としての責任を果たすために

京都薬科大学薬物動態学分野

柴田 敏之



1960～70年代にかけて、主に米国において、薬物動態学の理論の構築、薬物血中濃度の測定法の整備、薬物血中濃度の変動要因の解明などが行われ、一方、日本においては、1981年、医療法改正により特定薬剤治療管理料が新設されることとなり、このような経緯を経て、1987年、本学会は設立されました。1984年に設立されたTDM研究会を前身としており、設立メンバーである田中一彦先生（当時、国立循環器病センター）、三牧孝至先生（当時、大阪大学医学部）、扇谷茂樹先生（当時、国立循環器病センター）らが中心となって、今日のTDMの下地が培われました。機関誌「TDM研究」が創刊されたのも1984年であり、以後毎年、学術大会の開催と機関誌の発行を欠かさず、本学会は、TDMについて積極的に広く研究および討議し、医療に貢献することを目的として、さまざまな活動を続けてまいりました。

本学会が設立されて30余年が経過しました。これまで本学会の発展に貢献してこられた先輩の先生方のおかげで会員数も約800名となり、学会として、より重要な責任を果たすべき段階に達したと考えています。具体的には、TDMガイドラインの制定、国際交流、診療報酬の要望などですが、TDMガイドラインについては、2012年、日本化学療法学会と共同で「抗菌薬TDMガイドライン」が、続いて、2014年、日本移植学会と共同で「免疫抑制薬TDM標準化ガイドライン」が刊行されました。国際交流に関しては、1988年に第1回国際TDM学会が大阪で開催されて以来、約30年ぶりに、第15回学会を本邦で開催することになっております（会期：2017年9月24日（日）～27日（水）、会場：国立京都国際会館、Chairman：谷川原祐介先生）。

さて、本学会が行うべき事業の社会的な重要性を鑑み、この度、任意団体から一般社団法人化すること、また、学会として迅速な意思決定と機動的な行動を図るために新たに副理事長職をおくことが決定され、承認いただいたところですが、家入一郎先生（九州大学大学院薬学研究院）とともに副理事長を仰せつかった責任は重大であり、会員の先生方におかれましては、本学会のさらなる発展のため、引き続き、どうぞ宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。